

シニア記者が注目した不祥事・トピックス (9月16日～10月15日)

「」は注目すべき・見逃せない案件、「喝！」はけしからん・憤りを覚える案件

※は表の下にコメントを記載

日付	ニュースの概要	江口	大澤	千葉	佃	山下
9/19 ～	北海道森町 ゴーカーで死亡事故 コースター停止など遊具トラブル相次ぐ				喝!	
9/19 ～	内閣支持率 不支持が上回り急降下続く 国葬、統一教会、物価高、長男登用…響く		喝! ※	喝! ※	 ※	喝! ※
9/20	総務省 マイナポイント期間延長を発表 年末まで受け付け、年内 8000 万枚目指す				 ※	
9/20	コア CPI、基準地価とも 31 年ぶりの上昇 総務省、国交省が 8 月分、7 月時点を発表			 ※		
9/21 ～	ENEOS 前会長辞任理由は「セクハラ」 元自衛官が被害など性暴力次々明らかに	喝!				喝!
9/22	三菱電機 下水道料金一部未払いを発表 27 年間分、14 億円超を尼崎市に追加納付	喝!				
9/28 ～	日経新聞 「誤解を与えた」と訂正記事 ロシア石油裏流通の取材背景などを詳述					 ※
10/4 ～	Jアラート ミサイル発射で 5 年ぶり発令 通過と同時刻で実効性は「ほとんどゼロ」				喝!	
10/5	テレ朝 玉川徹氏を出勤停止 10 日の処分 国葬弔辞「電通関与」の誤認コメントで			喝!		
10/7 ～	日野自動車 取締役 3 人辞任、社長は続投 エンジン不正で歴代社長らの責任追及も		喝! ※			
10/11	日産自動車 「ロシア市場撤退」を発表 子会社株 1 ユーロで売却、特損 1000 億円					
10/12 ～	JAXA イプシロン 6 号機打ち上げならず 2013 年以来、初失敗、宇宙開発に大打撃					
10/13 ～	美杉観光バス 静岡山道で横転し死者も 原因は「フェード現象でブレーキ利かず」					
10/ ～	ウクライナ侵攻 8 か月 露の孤立深まる 冬を前に両国の攻防一層激化の懸念も					

◆シニア記者のコメント◆

【9/19～ 内閣支持率急降下 国葬、統一教会、物価高、首相長男登用など響く】

指導力を欠く岸田首相

臨時国会が召集された(10/3)。長期化するコロナ禍、激しさ増すウクライナ戦争、暮らしを脅かす急激な円安(1ドル 150円台)と消費者物価の上昇(9月前年同月比 3%アップ)、そして国民が憤る旧統一教会(世界平和統一家庭連合)問題と、難問山積だ。

自民党支持者もあきれられる旧統一教会との癒着では、細田博之衆院議長の“記者会見無視”や、地元後援会との密接な関係が指摘される萩生田光一政調会長ら政権キーマンの傲慢さが目立つ。関係を指摘されると後から認める失態を繰り返した山際大志郎経済再生相は、ついに辞任に追い込まれた(10/24)。岸田首相は旧統一教会の解散を視野に入れた方針を表明したが、それがいつ実現するかは全く不明。

首相のリーダーシップ欠如の下で、総合経済対策と補正予算の成立や、年末までの安全保障・防衛計画はまとまるのか。今月もまた内閣支持率は低下した。共同通信の10月世論調査では支持率 35%(前月 40.2%)、不支持が 48.3%(同 46.5%)。時事通信でも支持率 27.4%と過去最低となり、危険水域に突入した。(大澤賢)

【9/19～ 内閣支持率急降下 国葬、統一教会、物価高、首相長男登用など響く】

年内2か月が政権の正念場 カルトと縁が切れるか

派閥は違えど同期の士でもある頭目が殺害された一因であれば断固として追及すべきところ、閣僚に起用したズブズブ議員を解任もしない。円高と食糧危機を背景に物価高騰・天候不順の秋、支持率浮揚を期して岸田政権は禁断の世界に手を着ける決断をしたようです(ポーズかも、の疑いは拭えませんが)。

マスメディアは「思想信条の自由」を云々し、かと思えば「解散命令」だの法人格「剥奪」だの過激な言葉を並べ立てます。しかし実態は宗教法人登記の取消しに過ぎません。反社カルト集団の現金詐取、外為法ないしかつての COCOM (対共産圏輸出統制委員会)も視野に入れれば、自然な成行きのように思えます。

現政権は「聞く耳はあっても検討するだけ」とこき下ろされますが、2代続いた強権集中・閣議決定優先・議会無視の尻拭い内閣と言えないこともありません。「こども庁」に「家庭」の2文字が付け加えられた背景はともあれ、年内2か月が正念場となるかもしれません。(佃均)

【9/19～ 内閣支持率急降下 国葬、統一教会、物価高、首相長男登用など響く】

国葬に何を期待したのか

安倍元首相が死去した7月から国葬が行われた9月27日までの3か月間、日本経済全体が停滞していたように感じた。もちろん新型コロナ感染の第7派が始まった影響が大きいとは思いますが、イベントやキャンペーンなど派手な活動を自粛した企業も少なくないのではないかと。いくら弔意は求めないと言われても、“国葬”ともなれば多くの国民が巻き込まれることになる。

岸田政権の仕事ぶりも国葬が終わるまで、目立った働きが見えなかった。岸田首相は国葬などの説明対応に追われ、臨時国会が始まったのは10月3日から。その後も、旧統一教会問題の後始末が続いている状況だ。

岸田内閣の支持率は参議院選挙のあった7月時点で57%だったが、10月には40%まで低下した（朝日新聞調べ）。政権発足時から徐々に支持率が上がっていたのが、一気に急落するとは想像もしていなかったはず。岸田さんは国葬に何を期待したのだろうか。（千葉利宏）

【9/19～ 内閣支持率急降下 国葬、統一教会、物価高、首相長男登用など響く】

長男登用は大悪手 投了間近か

何事にもタイミングというものがある。坂本九は半世紀以上前、「この世で一番カンジンなのは、ステキなタイミング」と歌っている。ステキなタイミングを外すと、ろくなことはない。

タイミング外しの“お手本”が、10月4日発令の「岸田首相、首相秘書官に長男登用」であろう。内閣発足時や、高い支持を得ていた時ならまだしも、安倍元首相の国葬や統一教会とのズブズブ関係から内閣支持率が急降下しているさなか、あえて、身内びいき、悪しき世襲政治と非難されるのが必至の人事を断行した。

結果、長男登用が岸田離れに輪をかけ、支持率低下が止まらない。自民党内からも「空気が読めない」との声が少なからず上がっている。当方、同調圧力など気にしない「空気を読まない」行動や言説を「良し」とする一人だ。それでも、今回の長男登用はいただけない。囲碁将棋で言うところの大悪手にしか見えない。王様は詰む寸前、投了間近か……。 (山下郁雄)

【9/20 総務省がマイナポイント受付期間を延長】

マイナポイント 12月末まで延長 邪道は邪道

マイナンバーカードの交付を申請し、健康保険証・預貯金口座と紐付けるともらえる計2万円相当のマイナポイント。チャッチャと有難く受け取っている者が言うのも何だが、と思いつつ、河野太郎デジタル担当大臣が「これは邪道」と言い切ったことにいたく感動(?)したのであります。

マイナポイントの延長と2024年秋に健康保険証廃止を同時に発表したのは、見事なまでに分かりやすいアメとムチ。それなら2万円もらえるうちに……と考えるのが常人の心理です。マイナンバーカードの普及率49%が70%台に乗れば作戦は成功と言っていいでしょう。

とはいえ運転免許証があれば身分証明になりますし、月1ペースで通っている総合病院はマイナカードを健康保険証として利用できません。自身に翻ってマイナポータルへのアクセス頻度を考えると、それはサイトの使いやすさだけでなく、関連機関のデータ管理規定とデジタル対応力にかかっています。鼻先ニンジンで釣るのは、どこまで行っても邪道なのです。(佃均)

【9/20 コア CPI、基準地価とも 31 年ぶりに上昇】

「悪いインフレ」を変えられるか

インフレにも賃金上昇が伴う「良いインフレ」と、コストだけが上がる「悪いインフレ」がある。デフレ脱却を目指してアベノミクスではインフレ目標 2%を掲げて金融緩和策を実施してきたわけだが、インフレ目標達成を評価する声は聞かれない。物価上昇に見合う賃金上昇が実現するかはこれからだからだ。

今年度の家計負担は 1 人当たり 2.5 万円増となる見込みで、4 人家族であれば 10 万円の増加。民間エコノミストは、まずは来春の春闘賃上げ率 3%を実現できるかがカギを握ると見ており、連合の芳野友子会長も 1995 年以來の水準となる 5%を目指す考えを示している。

最低賃金も今年 10 月に時給 930 円から 961 円と 3.3%アップした。しかし、物価上昇を打ち消す程度の賃上げで、消費者マインドが上向いて経済の好循環が回り始めるのだろうか。今の日本は経済理論のシナリオ通りには事は運ばないのではないかと危惧している。(千葉利宏)

【9/28 日経新聞が 1 面トップ記事を訂正】

3000 字の訂正記事が分かりづらい

新聞に訂正記事は付き物。どの新聞にも訂正記事が少なからず載っている。時間的制約が大きい中、記者の思い込み、デスクの勘違い、校閲ミスなど、さまざま理由から事実と異なる記述となり、訂正に至る事例が後を絶たない。

日経新聞は 9 月 28 日付の 1 面と社会面に「本社報道、誤解を与える表現や誤り」の見出しで訂正記事を掲載した。その概要は 9 月 8 日付 1 面トップ「ロシア石油 欧州へ裏流通／ギリシャ沖で移し替え／制裁効果阻む恐れ」など 6 本の記事に事実誤認があったというもの。訂正記事の分量は合計 3000 字余と膨大で、何を、なぜ間違えたかを縷々、説明している。

紙面の片隅に小さく載るのが訂正記事の“定石”なので、異例の訂正だ。しかし、何度、読み返しても、よく分からない。その要因は「ロシア産石油が欧州などに運ばれているという全体像は揺るがない」と弁明している点にあるように思う。何を書き、何を省くかの取捨選択を誤った訂正記事になってしまっている。(山下郁雄)

【10/7 日野自動車がエンジン不正で役員辞任、歴代社長らは報酬返納】

異例の大失態 将来はあるのか

今年 3 月、エンジンの排出ガスと燃費性能に関する国の認証試験で、データ改ざんを発表した日野自動車。その後外部有識者による特別調査委員会が調べたところ、不正は約 20 年前から行われていたことが判明した(8/2 公表)。国交省が立ち入り検査すると、今度は主力の小型エンジンでも不正が行われていた(8/22)。

同省は直ちに「是正命令」を手交(9/9)。そして同社は再発防止策を国交省に提出し、同時に役員 4 人の辞任と歴代社長ら元役員 11 人にも報酬の自主返納を求める処分を発表した(10/7)。大企業の不祥事が続いているが、これほどの大失態は異例だ。顧客や取引企業などへの視点を欠く企業に、将来はあるのだろうか。(大澤賢)